エンパワーするNGO YWCA
大阪YWCA
8
2025
http://osaka.ywca.or.jp

YWCA(Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

# 二元論的思考を超えて、私たち自身のあり方を見つめたい

奥本　京子

ヨハン・ガルトゥングが逝ってしまった。2024年2月にその訃報を受け、平和のリーダーがまた一人、この世を去ったことを悲しむとともに、いよいよ「これからは、あなたたちが、がんばれ」と励まされる思いを強くしている。

平和学の開拓者であり、第一世代を代表する研究者・実践者の一人であるガルトゥングは、日本においても、平和学・平和研究、そして平和創造に関する教育や実践において、大きな影響を与えた。

1969年に「構造的暴力」の概念を含む暴力と平和の理論を発表し、1989～1990年には「文化的暴力」の概念を提示した。その後、「積極的平和」の定義を「構造的暴力の不在」から「平和を築くプロセス」へと進化させ、「直接的平和・構造的平和・文化的平和の存在・構築」と明確化した。

若かりし24歳のガルトゥングは、良心的兵役拒否からその平和創造の人生を歩み始める。ミクロからマクロ・メガレベルのコンフリクト（紛争・対立）の調停、170冊以上の書籍、1700以上の論文・記事の著作、などを通じて、平和とはダイナミック（動態的）なものである、すなわち、平和の構築・創造のプロセスにおいて重要なことはコンフリクト（紛争・対立）の所在を明らかにし、その紛争転換における創造性が重要であるという。

ところで、今の時代は権威主義的な政治が目立ち、民主主義が後退しているように見えるだろう。米国大統領トランプ氏が再選されたことは、確かに大きな一つの象徴的な出来事ではあるものの、そもそも現在の世界の傾向――専制的な政治とそれを支える構造や文化――は今に始まったことではない（もちろんその傾向は加速・膨張していることに大きな危機感を覚える）。北米、南米、アフリカ、ヨーロッパ、アジア、そして私たちの足元のこの日本において、この間、この傾向は着々と広がり、それが「普通」になるほどに増殖してきた。民意を無視し、社会的「弱者」を切り捨てることは、ガルトゥングが主張を展開してきたように、まさに「暴力」である。それは、既得権益を保持する現状維持が都合がよい人々を、何にもまして優先する。

世界のコンフリクトが「セキュリティ（安全保障）」の名のもとに「勝ち負け」重視の二元論に振り回され、殺戮・搾取・抑圧の構造や文化が深まっていく中、私たちは「ピース（平和）」のアプローチを実践しなければならない。

「彼ら」と「私たち」に区切って二元的に語り、非難し、民主主義の後退を嘆き続けることは、「私たち」の中にある「彼ら的なもの」を見落とすことにつながっていく。この文章の執筆が私自身に跳ね返り突きつけてくることは、現状維持に私自身が加担してはいないだろうか、ということである。私たちが自らの生活を通じて、ガルトゥング平和学の理論をいかに理解し、実践に移していくかが問われている。

おくもと　きょうこ
大阪女学院大学　国際・英語学部　教授　平和紛争学、紛争転換学、ファシリテーション研究など。東北アジアを中心に、芸術アプローチで平和教育・トレーニングの実践を行う。主な著書に、『平和ワークにおける芸術アプローチの可能性』（単著）、『ファシリテーションが創る大学』（共編著）、『共生社会の大学教育』（共著）、『平和創造のための新たな平和教育』（共編著）、訳書に、『ガルトゥング紛争解決学入門』（共監訳）など。

# この声を忘れない

## 戦争体験者の思いをつなぐ

今年2025年は、第2次世界大戦終結から80年となる。この年月は戦争の記憶から遠ざかっていった年月でもある。戦争体験者は少なくなり、直接戦争体験を伺える機会はもうそれほど残されてはいない。大阪YWCAでは2005年に「戦後70年によせて」という戦争体験者の証言をまとめた冊子を作った。この時よせてくれた方たちの声に今一度耳を傾け思いをつなぎたい。「国を守る」という抽象的な言葉ではなく、戦争が一人一人名前のある個人に何をもたらすのかという事実を少しでも多く知ることが次の戦争を防ぐことにつながる。

（大阪YWCA「戦後70年によせて」より一部省略して抜粋　敬称略）

### 31歳で戦死した父へ

村松通子

村松さんは4歳の時に父が戦死し、大人になって初めて父の思いに触れた。

『育ての父が旅立って、月日がたったある日、母が私に実の父が残した日記と戦地から私宛に絵を添えてカタカナで書いたハガキを渡してくれた。育ての父が存命中は封印していたのだろう。私は2冊の日記を数日に渡ってむさぼるように読んだ。昭和15年16年の日記で、そこには兄の成長の喜び、私の誕生の喜びを何首もの短歌を交えて克明に記されていた。それと同時に自分の生き方、家族の事、日本が戦争に向かって行きそうな日々の事など、父26、27歳の頃だと思うが、日々真剣に模索していた様子が伺え、今更ながらに父に会いたい、話を聞きたいという思いが募った。31歳の若さで命を落とさなければならなかった時の父の思いとはどんなものであったのだろうか。』

### 敗戦後の満州で

澤田祐子

旧満州で生まれ育った澤田さんは敗戦時9歳だった。関東軍司令部や満州政府が真っ先に逃げ出した後の過酷な状況を子どもの目線で記してくれた。

『この間、私にとって大きな意味を持つ出来事は中国政府の命令で校舎を中国人学校の校舎と交換したことです。私が入学したこの校舎は煉瓦造りの2階建て、全館スチーム暖房の立派なものでした。ところが中国人学校に行ってみると校舎は大変粗末で土間の教室が並んだ平屋の建物と小さな木造2階建てがぽつぽつ建っているだけでした。中略～その日校長先生から次のようなお話がありました。「私たちが住んでいるところは中国で、そこで何不自由なく勉強できていたのは武力を後ろ盾にしていたからだ。今後日本は武力ではなく文化の力で尊敬される国にならなければいけない。新京は以前長春という名前だったが日本が入ってきて新京と変えたので、これからは長春と呼ぶように」私は「なるほどそうだったのか、日本人はよその国に来て勝手なことをしていたんだな」と納得しました。申し訳ない気持ちでした。日本人が中国人や朝鮮人をばかにしたり、ひどい仕打ちをするのを見たり聞いたりしていて、子ども心になんとなく違和感があったのです。』

### 学徒出陣

長塩静子

長塩さんは1944年10月21日の神宮外苑出陣学徒壮行会に送る側で参加していた。

『私はどんよりと垂れ込めた暗い空の下の冷たい雨の中、広いグランドの指定された場所に婦人団体と共に並んでいた。重苦しい空気の下で式典は始まり、はるか中央の壇上から東條首相の言葉がマイクで流れた。中略～式典は終わり、出陣学生は隊列を整え銃を肩に歩調をとり、グラウンドに沿って私たちの前を通り会場を出ていく。次々に隊列が過ぎていくのを、私たちは起立してなんとも云えない悲痛な思いを胸一杯に、無事を祈る目を精一杯に向けて見送るより他どうしようもなかった。この時の思いは、胸の中にずしりと重く、年を経てもぬぐい去ることはできない。』

### 神戸空襲

杉田典子

杉田さんは中学生の時、神戸空襲に遭った。

『1945年6月5日の早朝サイレンの音で目が覚め家が地震のように揺れ始めました。その時家にいたのは母と姉と私で、3人は急いで家を飛び出しました。その時家の方を見ると火がついていました。中略～ヒューという音がしたので学校で教えられた通り手で耳と目を抑えて地面に伏せました。すると焼夷弾の破片が背中を貫通しました。もう5ミリずれていたら即死したそうです。起き上がると母も姉もいませんでした。はぐれてしまったのです。その後また伏していた私の左足の裏を破片が貫通しました。体に三か所も重傷を負いつつゆっくり歩いて海の近くに来た時、溝があって、周りがあまりに熱いのでその中に入りました。でも既に何人かの人が入っておられたのですぐ這い上がりました。その後すぐその溝に火が通って、入っていた人は焼死されたそうです。ぽつぽつ歩いてやっと海辺にたどり着いた私は、海辺の別荘の庭の松がパチパチ音をさせながら燃えているのを見ました。火花が散っていました。私はぼんやりとローマの大火はこんなのだったのかなあと思いつつ気絶してしまいました。』

## ぶどうの木 230

### 千里に住んで

今年は、大阪関西万博が夢洲で開催され賑わっておりますが、55年前この千里でも万博が開催され何度も通ったのを懐かしく思い出されます。

大阪万博の3年前に主人の仕事の関係でこの地に引っ越してきました。やはり万博のお陰で千里が急激に発展し千里中央を中心に便利な町になりました。

我が家もこの地で子どもたちが育ち、孫たちの成長の過程で大変苦労している時に大阪YWCAシャロン千里で大変お世話になり、そのご縁で私も入居させていただく事ができ、職員の方々の優しさ、温かさにふれ何の不安も感じる事なく自由で居心地の良さに感謝で毎日過ごさせて頂いております。入居者の中にも細やかに相手の身になって心を添わせて下さる方がいて、本当に驚きと感動です。少しでも私も見習いたいという思いとこの恵まれた環境の中で残りの人生が過ごせることを願いたいです。

（会員　春本　美恵子）

2009年に朝日新聞社「子どもへの暴力防止プロジェクト助成金」を頂いて始まった「親子でいきいきリレーションシップ」が、昨年「おやこでsmile」にリニューアルしました。15年以上の長きにわたりファシリテーターとして、松井洋子さん（元ことばの学校講師・からだとこころの出会いの会主宰）が関わって下さっています。子育ての悩みから始まり、いつの間にか自分の人生を導く灯台のような繋がりが、ここから生まれています。参加者の声を紹介します。

## 子育て応援講座 おやこで smile

次回は**10/24**と**1/23**
@大阪YWCAシャロン千里
10:30～12:00
参加費1000円
お申し込みは
こちらへ

日々自分の子育てはこれでいいのだろうか、子育てには何が大事なんだろうか、と漠然とした悩みを抱えながら過ごしていました。

子どもが言うことを聞かない時など、イライラしたり、叱ったり、つい自分の考えやり方を押し付けてしまうことが多々あったのですが、「子どもを理解すること」「子どもに共感すること」の大切さを教えていただき、子どもの気持ちに寄り添い、共感することで、子どもの反発や癇癪が少しづつ減ってきている様に感じています。

松井先生や他の参加者の方とお話しすることで、気付きや自分自身を客観的に考え、見つめ直すいいきっかけになっています。いつも実りある時間をありがとうございます。

（参加者　熊谷昌代さん）

2児の母です。友人の紹介で松井先生のプログラムに参加して6年経ちます。子育てを通して過去の自分と向き合ったり、今の自分と繋がる人と向き合う機会を頂きました。きっとここに来ないと、原点回帰することもなかっただろうし、そうすることが必要なことに気づきもしなかったと思います。

スマートに生きているように見えて、皆それぞれの悩みや葛藤があること、一生懸命生きていることに触れることができ、明日から頑張ろうというパワーをもらえます。今の時代、肉親でもない誰が面と向かって、「それはお母さんが間違っています。」と言ってくれるでしょうか。それも愛情を持って。

松井先生をはじめ、そこに携わる人々、参加される方々の思いを感じ、毎回温かい気持ちで家に帰ることができます。とにかくたいへん有り難くて貴重な場であること間違いないです。

（参加者　居場　由理さん）

YWCAの窓

## 国際女性年大阪連絡会の取り組み

大阪YWCAが加盟している団体に〝国際女性年大阪連絡会〟があります。1975年の国連第一回世界女性会議を機に発足したこの会は、毎年8月に平和集会、そして3月8日の国際女性デー前後にも集会を開いています。

今回はここ3年の春の集会について報告します。2023年のテーマは「コロナ禍で深刻化する家庭内暴力～女性と子どもが安心できる社会を」でコロナ禍の閉塞感の下、DVが増え支援が届きにくくなっていることを、講師の正井禮子さんからたくさんの事例をあげてお話し頂きました。2024年は大沢真知子さんを講師に「性暴力と男女不平等社会」についてでした。NHKの性暴力被害調査をもとに性被害が低年齢化し、被害を訴えた後の二次被害が増えていることを知りました。因みに大沢さんと一緒に調査を企画したNHKディレクターは千里の子育て支援プログラムの元ボランティアです。

今年2025年は雪田樹里さんを講師に「性暴力を許さない社会を！～被害者を孤立させないために～」がテーマでした。講演は詳細なデーターから解る性被害の実態、女性支援法について、セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツについて広範囲にわたり、まるでこの3年間のまとめのようでした。いくつもの女性団体と協働して平和やジェンダーについて学ぶ機会を持つことは有意義で絶好のエンパワーの機会です。8月3月の集会に是非、足をお運び下さい。

（会員　辻川　さとみ）

## Books 編集部文庫

『スゴ母列伝　いい母は天国に行ける　ワルい母はどこへでも行ける』
堀越英美著　大和書房

マリー・キュリー、医師であり教育者であったマリア・モンテッソーリ、岡本太郎の母で作家の岡本かの子、養老孟司の母で医師の養老静江などスゴ母が紹介されている。いわゆる子ども第一いい母対自由でカッコよく生きる悪い母という二項対立ではない。どちらに対しても肯定も否定もせず、人が生きるとは、という大きな問いがなげかけられている。

### 聖書の言葉

平和、平和、遠くにいる者にも近くにいる者にも
（イザヤ書57章19節）

未来へ――安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
大阪本店　〒541－0051　大阪市中央区備後町1-7-10
ニッセイ備後町ビル1階
TEL06-4964-8700

株式会社 オフィスインテリア
Homepage
本店
〒534-0024　大阪市都島区東野田町4-1-17
日本ロジックス大阪東野田ビル　2F
TEL.06-6351-8830(代表)
東京支店
〒130-0024　東京都墨田区菊川1丁目18-1
TEL.03-5875-8315
お客様の事業成長に貢献する設計・デザイン・施工を一貫して計画・管理致します。

## 大阪YWCA専門学校 2025年度春期

### 4名の留学生に奨学金を授与しました

マック　トゥイ ヴァンさん（ベトナム）

**【大阪YWCA奨学金】**
日本に留学した理由は日本の学校で経営学を勉強したいからです。将来の夢は自分のレストランを持つことです。奨学金を受け取ったのはありがたいと思います。ここが最後ではなく、良い成績を習得できるように今から頑張ります。

グエン　チャン　タン チュックさん（ベトナム）

**【仙台宮城野奨学金】**
私は日本の文化や教育にとても興味があり、日本語を学びながら将来に役立つ知識と経験を身につけたいと思って留学を決めました。将来は日本とベトナムをつなぐ仕事がしたいです。奨学金はとてもありがたく思っています。もっと勉強を頑張ろうと思いました。

バヤスガル メンドアマルさん（モンゴル）

**【仙台宮城野奨学金】**
日本の大学の国際関係学科で学び、卒業後は日本とモンゴルをつなぐ架け橋となるような仕事をすることが夢です。両国の交流や協力に貢献できる人材になりたいと思っています。奨学金をいただけて経済的な負担が減り学業に集中することができました。本当に感謝しています。

生（せい）　婧萱（じょうけん）さん（中国）

**【鈴木保奨学金】**
私が日本で勉強を決めたのは日本の文化や教育制度や社会について学びたかったからです。母親の日本留学経験も私の決意を強くしました。ですから日本での勉強の機会を最大限に活用し、日本語、日本文化、日本の教育への理解を深め、将来の礎を築きたいと思います。本奨学金は単に経済的負担を軽減するのみならず、これまでの私の学業への真摯な取り組みに対し、多大なるご理解と評価を賜ったものと深く感謝しています。

6/7

## 千里バザー報告

たくさんのご来場ありがとうございました。千里バザーは多くのボランティアの力で運営しています。今回はバザーの裏側で働くメンバーの様子をご紹介します。

6月の恒例千里バザーは働き人の一致団結で、今年も目標額を大幅に超えて無事終わりました。

連日のお仕事会では、遠くからバスで来られる人、仕分けのための段ボール箱を運ぶのにカートを使って坂道を登って来た人、大きさも重さも様々な寄贈品の仕分け作業はどれ程のご苦労だったことでしょう。

私達配食グループは、当日9時集合で、今回は嬉しい9人の参加。バザー撤収のあとの昼食担当です。木曜日の配食数の約半分強といってもおむすび弁当、手がかかります。

お楽しみは卵焼き、必須です。かき揚げは日頃の配食弁当でもご希望が多く、沢山作って残りを買っていただきました。あっという間に売り切れたそうです。皆さん揃って疲れた体で机を囲んでお結び弁当、とても喜んで下さったようで、

キッチンで食べた私達も共同作業の楽しさを満喫しました。撤収の際の配食メンバーの若い方達の働きは、目覚ましいもので頼もしい限りです。

（会員　鈴木　一代）

## ご協力ありがとうございます

［25／5／1～25／6／30］敬称略順不同

### ■賛助費

井上　貴代　小池りつ子　小島志佐子
ジャクティアニィー富士子
芹野　恵美　田中佐和子　田邊　昌代
徳田　真生　平井代里子　福田　有里
船越あゆみ　松永　茅光　森　明美
安原みゆき

### ■会員維持費

秋山　佳子　飯田　雅子　大杉美耶子
大原千恵子　片山　淳子　加藤　康子
河合美枝子　川崎　明恵　貴島　照代
金　志映　小幡　弘子　齋藤　知子
坂上　信子　阪本　和子　鹿野　幸枝
末吉佳世子　鈴木　一代　田口　美智
田中　慶子　田中真砂子　谷　佐代子
辻　加代　徳広　彩　寺坂阿佐子
中津　陽子　中山　光世　二谷世津子
広瀬　圭子　藤岡美智子　藤林　昭子
帆足　文子　堀本千代子　本田　芳子
村松　通子　森垣　房子　安田　乙世
山高万寿子　山田　智子　渡辺　知子

### ■寄付

**グループパレット**
池本　勝俊　村井　毅

**梅田**
橋本智香子

**その他**
手島　繁　上田由美子

### ■募金

5口　123、017円

## 5月運営委員会報告

**【報告】▼女性エンパワメント部**「私らしく咲く第10章」女性のこころの発達を考える連続講座4／12～実施　**▼梅田会員部**　グループベジスープ、4／16留学生への野菜たっぷりスープ提供

**【協議】**1 4／26世界YWCA日集会ふりかえり　2 2025年度主催プログラムの担当と進め方

## 6月運営委員会報告

**【報告】▼財務委員会**　2024年度決算報告　**▼グループパレット**　5月例会、生駒山上遊園地へ　**▼梅田会員部**　6／7委員会に各グループの代表出席、グループの活動報告や意見交換　**▼千里委員会**　6／7千里バザー、目標額達成

**【協議】**1 各部等の2025年度募金目標額および趣意書文言検討　2 2025年度クリスマスバザーへ向けての進め方等検討　3 次期日本YWCA助成LA（Local Action）申請の可能性等検討

## 新入会員歓迎!!

会友
井上　隆晶　池本　勝俊

発行所　大阪YWCA　編集発行人　津戸　眞弓　〒530-0026 大阪市北区神山町 11-12　TEL 06－6361－0838　FAX06－6361－2997